

中学校 道徳 部会

部会長名 福智町立金田義務教育学校 校長 井上 修一
実践者名 大任町立大任中学校 教諭 谷川 明歩

1 研究主題

「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導」
～一人一台端末の効果的活用の視点を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方法策等について(答申)」では、国内外学力調査では近年改善傾向にあることと、「人の役に立ちたい」と考える生徒が増加傾向にあると述べられている。近年では、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の変化を超えて進展するようになってきている。社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。また答申では、このような未来を生きていく子供達に効率的に決まった問題解決を行うだけでなく、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、主体的に学び続けて、自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していく力を身に付ける必要があると述べられている。そのためには、子供達一人一人が、予測できない変化に受け身に対処するのではなく、主体的に向き合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である。

(2) 生徒の実態から

本校では毎月1回の「いじめに関するアンケート」や、一人一台端末を活用して生徒が悩みをいつでも打ち明けることができるようなシステムを作り、生徒が1人で抱え込まない体制を作っている。生徒が人間関係において悩みを打ち明けて来た場合には、必ず教師が組織で対応し、相手を傷つける言動はいかなる場合でも決して許されないということを、生徒に伝える場を必ず設けるようにしている。本学級の生徒は事前に実施した生活アンケートの「正義を大事にし、誰に対しても公正、公平に接している。」という項目について9割の生徒が「よくできる」「だいたいできる」と回答した。このような点から、生徒は誰に対しても公正、公平に接することの大切さを理解しており、意識しながら過ごしていこうとする意思を読み取ることができる。しかし、日々の生活の中では知らず知らずのうちに相手を傷つける言動をとってしまったたり、からかうつもりでとった言動が人間関係のトラブルに繋がったりするなど、知っていることが必ずしも生徒の言動に反映されているとは言えない現状も見受けられる。

3 主題の意味

(1) 主題について

① 豊かな心

「豊かな心」については、「中央教育審議会答申（以下、中教審答申とする）第3期 教育振興基本計画について」において、「子供の健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠である。このため、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神等の育成を図ることが重要である。」と説明されている。

② 夢や未来を拓く力

「夢や未来を拓く力」については、「中教審答申 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」では、『生きる力』は、「変化が激しく、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる複雑で難しい時代を担う子供たちにとって、将来の職業や生活を見通して、社会において自立的に生きるために必要とされる力」であると述べられている。

③ 豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導

本校が掲げる「目指す生徒像」は「自分の可能性を信じ、向上心をもって目標に向かって行動する生徒、集団への貢献を深く考え、適切に判断し、友と励まし高め合う生徒、目標達成や課題達成のため、柔軟な発想と学んだ知識を活用する生徒」である。そこで、本研究における「豊かな心をもち、夢や未来を拓く力をはぐくむ道徳科学習指導」とは、本校の「目指す生徒像」と関連付け、「人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神と的確な思考力・判断力、忍耐力やたくましさを道徳科の授業の中で育むこと」と定義する。

(2) 副主題について

① 一人一台端末活用の視点

「福岡県学校教育 ICT 活用推進方針」では ICT 活用による「新しい教育」の姿を、ICT 活用を目的にするのではなく、「学習指導要領が掲げる資質能力を育成することを「目的」とし、ICT 活用をこの「目的」の実現のための「道具立て」、授業改善に向けた「有効な手段の一つ」とであると述べられている。さらに「これまでの教育実践と ICT 活用路を適切な組み合わせさせた効率的・効果的な学校教育活動を展開するためには、ICT 活用の特性・強みを踏まえて、活用する場面や機能を工夫する必要がある」とし、そのような「ICT 活用の特性・強みをいかすことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善や、個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実につなげ、情報活用能力等の従来はなかなか伸ばせなかった資質能力の育成や、今までできなかった学習活動の実施が可能になる」であろうと述べられている。

そこで、本研究における「一人一台端末の効果的な活用の視点」を、「情報活用能力」を身に付けさせるために必要である、「基本的な操作等」、「問題解決・探求における情報活用」「情報モラル・情報セキュリティ」の3つの視点と定義する。

さらに「福岡県学校教育 ICT 活用推進方針 解説版」では、これらの視点を次のように整理している。「基本的な操作等」については、「キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧など、基本的な操作等の習得に関するもの」とある。「問題解決・探求における情報活用」については、「問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつことができる」と述べられている。「情報モラル・情報セキュリティ」においては、「SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付ける者や情報を多面的・多角的に捉えたり、複数の情報を元に自分の考えを深めたりするもの」と述べられている。

② 一人一台端末の効果的な活用の視点を取り入れた道徳科の授業

本研究において、「一人一台端末の効果的な活用の視点を取り入れた道徳科の授業」とは、1 単位時間の道徳の授業に「基本的な操作等」、「問題解決・探求における情報活用」「情報モラル・情報セキュリティ」の視点を組み込んだ授業とする。

4 研究の目標

「豊かな心を持ち、夢や未来を拓く力をはぐくむ生徒」を育てるために、一人一台端末の有効的な活用の視点を取り入れた道徳科授業実践の有効性を明らかにする。

5 研究仮説

道徳科の学習において、一人一台端末の効果的な活用の視点を踏まえた授業を行えば、道徳科における見方・考え方をはたらかせ、「豊かな心を持ち、夢や未来を拓く力をはぐくむ生徒」を育てることができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 単元「ヨシト」(「中学道徳 あすを生きる2」日本文教出版)

(2) 単元(題材等)の目標及び指導計画

同調圧力に流され差別や偏見を傍観してしまう、人間の弱さに気付き、集団の一人として差別や偏見を許さず正義を実現しようとする態度を育てる。

7 指導の実際

	学習活動・子どもの反応	指導上の留意点
導入	1 多数決をするときに、自分の意見とは違うが多い方に手をあげてしまった事があるか問う。 ・ある。→なぜか?	○同調圧力によって、自分自身の意思を貫くことが難しい事があるという人間的な弱さに気づかせるために、多数決を例にとりて生徒の意見を聞く。
	めあて 公正・公平な態度、社会正義とは何か考えよう。	
展開	2 「ヨシト」を読み、公正・公平な態度について考える。	

	<p>(1) 「僕」が、話しかけてきたヨシトにうそをついて廊下に出て行った時の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの目が気になった。・その場から早く逃げ出したい。 <p>(2) 回ってきた紙切れを何も言わずに握り締めたときの「僕」の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシトを笑いものにしているものにしていくクラスメイトに腹が立つ。・ヨシトに何もしてやれない自分が悔しい、情けない。 <p>(3) 腹の底に熱い塊を感じた「僕」の気持ちについて考える。(中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシトを笑いものにする者は絶対に許さない。 ・周りに流される自分の弱さに負けない。 ・偏見などの間違いを正したい。 <p>3 この後「僕」はヨシトとどのように関わっていくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加害者に注意をする。 ・教師に相談する。 ・ヨシトと友達として関わる。 	<p>○不公平な態度とは思いつつも、多数の意見に同調してしまっている主人公の気持ちを捉えさせるために、主人公の行動についての発問をおこなう。 補助発問：「小さい頃『僕』はヨシトをどう思っていたか」と問い、特別視していなかったことを押さえる。</p> <p>○学級のみんなへの腹立たしさと、何もできない「僕」の自分へ対する悔しさに気づかせるために、ヨシトと主人公の関係にも着目しつつ発問をする。</p> <p>○ヨシトのよさにあらためて気づいた「僕」が、集団の中での人間の弱さに向き合い、同調圧力に流されないうで正義に基づいて行動しようと決意したことを捉えさせるために、「僕」の心情について考え交流させる。</p> <p>○「周りに流されてしまう弱さは、なぜ出てくるのだろう。」と問い、集団の問題として捉えさせる。</p> <p>○いじめは集団の問題であることを認識させ、それを断ち切るにはどのような立場から物事を考え行動する必要があるか考えさせために、いじめの四構造をもとにこの後「僕」がどのような行動をとるか考え、交流させる。</p>
終末	4 「空気」という作文を読み、本時の感想を書く。	○本時の学習内容を深化・補充するために、実際にいじめの被害にあった生徒の作文を読み、感想を書く。

8 研究のまとめ

本研究を通して、生徒がまず自分の意見を持ち、多くの友達と意見交流を行う事で、

交流前は、「いじめがあったら止める。」「やめるように伝える。」などの表面的な考えを書く生徒が多く見受けられたが、交流後は、「いじめがだめだと分かっているけど、合わせなければ自分がターゲットにされるかもしれないという不安から周りに言うことができない。」と、人間がもつ脆弱さに気付く生徒の姿が多く見受けられた。また、一方で「人はそれぞれ合う、合わないがあるのに、いじめをなくしていくことは可能なのか。」と、道徳の時間を通して新たな課題を見つけた生徒もいた。このような生徒の姿から、より多くの生徒と意見を交流することが、生徒の道徳的価値の深化・補充に有効的であると考えられる。

今回、交流で考えを深める事ができるように、事前にタブレット端末を活用して自分の考えを表現させた。その際、自由に何度でも修正して自分の考えを表現できるタブレットの特性を生かし、意欲的に取り組む生徒がほとんどであった。タブレット端末を活用した交流では、より多くの生徒と効率的に意見を交わすことができたと考えられる。これは、本校の生徒が、普段の授業から日常的にタブレットを活用することで「基本的な操作」が身に付いており、一つの交流ツールとしてタブレットが位置づいているからだと考えられる。実際にノートよりも速く行うことができ、且つ短時間で見栄えよくワークシートに自他の考えをまとめることができた。今後は生徒の意見を電子黒板に一斉に映し出す機能を活用したり、学習ソフトの機能を活用したりして考えを共有し、その中から「この人の考えを聞いてみたい」と思う人の所へ行き交流させることなど、より効果的な活用を通して、めざす生徒像の実現に向けて研究を進めていく必要がある。

9 成果と今後の課題

- 生徒の感想から、交流活動を通して、人がもつ脆弱さに気づき、それも踏まえた上で自分はこれからどのような心もち、行動していく必要があるのか、自分の考えを感想にまとめる生徒の姿が見受けられた。
- 本時の内容項目「公正・公平・社会正義」については、生徒が自分事として考えやすい内容であったため、事前のアンケートで「自分の意見に反して多数派に流された経験がある」と答えた生徒が自らの経験を振り返り、そのような行動が状況によっては人を傷つける可能性がある」と考えを深める様子が見られた。
- 自分の意見をまとめる際タブレットを活用することで、間違っても消すことが容易であり、なおかつ記述量に制限がないため、意欲的に自分の意見を記述する生徒が増えた。
- 授業内で意見を交流する際に、紙面上で行う時よりも多くの生徒と交流をし、メモを取っている生徒が増えた。
- 生徒に、自分と他者の考えの違いや、考えを深めることができるように、交流の時間を十分に確保する必要がある。
- 人間のもつ脆弱さに気が付くことができた生徒の意見に対して、それを乗り越えていくためにどうしていけば良いのかなどの「夢や未来を拓く力」を育成するためにさらに考えを深める場を提供し、生徒の道徳的な実践意欲と態度を育てていく必要がある。
- 内容項目によって、タブレット端末を活用するか従来のノートを活用するかを吟

味する必要がある。

- 生徒が交流を通して、より自分自身の考えを深められるように、タブレット活用時は学習ソフトの比較機能などを有効的に活用していく必要がある。

◎ 参考文献

- 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』文部科学省
- 『道徳教育』編集部(2023)『考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集』明治図書
- 福岡県教育委員会(2022)『小・中学校版 福岡県学校版 ICT 活用推進方針 ～導入期から活用期,そして発展期へ～』福岡県教育委員会
- 福岡県教育委員会(2022)『小・中学校版 福岡県学校版 ICT 活用推進方針 ～導入期から活用期,そして発展期へ～ 解説版』福岡県教育委員会
- 中央教育審議会（2016）『学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』文部科学省